

全国展開支援事業を活用し、 町を活性化

度会町商工会（杉本喜助会長）は、特産品開発を観光客の誘客につなげることで、町の活性化を目指している。

これまで、町の基幹産業となっているお茶や獣害対策も兼ねた猪鹿肉、天然鮎を使った商品などを相次ぎ開発してきた。今年秋に隣町にある伊勢神宮の式年遷宮が行われることから、「今年度は観光ルートの調査などを行い、特産品を生かした観光開発に取り組む計画」（杉本会長）だ。

獣害対策として、

女性部員が鹿コロッケを考案

度会町商工会は平成20年度から、地域活性化の一環として、地域力活用新事業全国展開支援事業を活用した特産品の開発に力を入れている。初年度は、

隣町の玉城町商工会と共同で、町の基幹産業となっている「わたらい茶」を使った特産品の開発に着手。茶業組合に声をかけ、お茶製造業や菓子店、うどん店などが参加し、お茶の粉末を使ったうどん、プリン、クッキー、ゼリーなど6商品を開発した。

21年度は、「マイナスの資源をプラスの地域資源に変える」をテーマに、獣害対策を兼ねて猪鹿肉を使った商品の開発に取り組み、肉そぼろ、ミートボール、肉まん、鹿コロッケを商品化した。三重県では年間7億円近い獣害があり、鹿だけでも毎年1万5000頭が捕獲されている。

獣害対策で捕獲した鹿肉の有効活用事業として三重県、度会町、商工会などが共同で商品開発に着手。商工会女

性部が中心になって、ジャガイモとタマネギ、鹿肉のミンチを混ぜ、その中に鹿肉の塊を入れた鹿コロッケを商品化した。

鹿コロッケは、大手カレー店の トップینگに採用される

商品化した鹿コロッケは、急速冷凍し全国展開している大手カレー店に納入した。大手カレー店では、県内の30店舗で、コロッケ2個をトップینگしたカレーに、町特産のわたらい茶の粉末をかけ、「シカコロオチャメカレー」として販売した。2カ月の限定販売だったが、約7000食を販売し、大手カレー店の県内メニューランキング9位にランクされるほどの人気商品となった。

杉本喜助会長に聞く



度会町商工会は、特産品開発に力を入れていますが、どのような狙いがあるのですか？

これまで、基幹産業となっているお茶を使った商品の開発や獣害対策として鹿コロッケの商品化、さらには天然鮎を使った商品などを開発してきました。町は観光客を誘客するため、町内の幹線道路沿いに道の駅を建設する構想があります。道の駅は、観光拠点や地域特産品の販売拠点として期待されていることから、それまでにたくさんの特産品を開発して、取り揃えておく必要があります。特産品を観光開発につなげ、さらには町の活性化につなげていきたいんです。

特産品の開発に加え、イベントも積極的に進めていますね。

地域に必要とされる商工会でなければなりません。そのためには、地域住民との交流を図っていく必要が

度会町商工会では女性部メンバーの有志でLLP（有限責任事業組合）を設立して、コロッケなど鹿肉を使った商品の本格的な生産体制を構築する計画だ。

24年度は町内を流れる一之瀬川の天然鮎を使った商品の開発に取り組んだ。この地域には、天然鮎を炙って料理する伝統的な料理方法があることから、炙り鮎を使った商品や料理の開発に取り組んだ。鮎の甘露煮や甘露煮押し鮎、鮎ラーメン、鮎のつけ麺などの料理を考案し、それぞれの店舗のメニューとして提供している。



女性部メンバーが中心となって商品化した鹿コロッケ

開発した特産品は、商工会が運営する特産品販売所などで販売

開発した特産品は、個々の店舗やインターネットで販売すると同時に、商工会が運営している特産品販売所「いらっ茶いわたらい」でも販売している。特産品販売所は、町が運営していたが、平成22年から商工会が運営し、各種お茶や新たに開発した商品などの販売を行っている。「小さな店舗が多い時には、1日15万円近くの売上がある」（山北佳宏事務局長）。

今年秋の伊勢神宮の遷宮に合わせ、観光開発にも力を入れる

今年度は伊勢神宮で、20年に1度の式年遷宮が行われる年に当たることから、数年前から伊勢神宮への参拝客が増えている。度会町は伊勢神宮がある伊勢市に隣接し、高速道のインターチェンジから伊勢市に向かう一般道路の途中にあり、「休日は町内の道路が渋滞することが多くなっている」（松井 柗佐美経営指導員）という。

「観光客を誘客するための絶好のチャンス」（杉本会長）として今年度は、観光開発に力を入れていく方針だ。全



商工会が運営する特産品販売所「いらっ茶いわたらい」

国展開支援事業の補助金を活用して、観光ルートや交通量、新たな商品開発の可能性などの調査・研究を行う。

度会町は観光や情報発信、特産品の販売拠点として、道の駅建設の構想を持っていることから、「道の駅ができるまでに、少しでも多くの特産品を開発しておく必要がある」（杉本会長）として、今後も特産品の開発にも積極的に取り組んでいく考えだ。

「これまでお茶を使った商品、鹿肉を使ったコロッケ、鮎を活用した料理などを開発してきたが、四季を通して提供できる特産品、料理を揃えていきたい」（山北事務局長）と、新たな特産品開発に意欲を見せる。

あります。商工会では町民と交流を図るため、鮎釣り大会や商店街振興のためのセールなどを積極的にを行っています。毎年行っている謝恩セールは、今年で23回目を迎えますが、多くの会員事業所に参加していただいています。謝恩セールが終わった9月初めには、町内の公園で抽選会と花火大会や踊り、バザー、小学生の絵画コンテストなどのイベントも行い、町中が盛り上がっています。

——**会員減少、補助金の削減など商工会は厳しい状況にあります。商工会を運営するうえで、会長としてどのようなことを心がけていますか？**

役員、職員が一丸となることです。役員の方たちはイベントや、新しい事業を行う時も手弁当で駆けつけてくれますし、会員増強でも未加入の事業所には事あるごとに話をしている。ただ、会員増につなげています。

商工会の運営をスムーズに行うには、行政との二人三脚が不可欠です。町長には機会あるごと、「商工会の発展がないと、町の発展はない」と、言っていたいただいています。また、町議会議員は商工業者に関係なく、全員に商工会の会員・賛助会員になっていただいています。住民、町、町長、町議会などと緊密な関係を築くことで、商工会運営が非常にやりやすい環境にあります。